

第9章 まとめと今後の課題

第9章 まとめと今後の課題

今回の研究は、大学等の研究者がイノベーション創出につながる研究を行うために、パテントマップを効果的に利用して研究に取り組む手法を開発することを目的とするものである。特に、論文情報検索は適切に実施しているものの、特許情報検索と活用には慣れていない研究者に重点をおいて研究を実施した。もちろん、特許情報活用経験が豊富な研究者にも、研究者自身のドメインとなる技術領域から飛び出して、応用展開の着想を得るために利用するマッピングシステムとして機能する要素も一部含んでいる。

委員会組織による検討や日常的なワーキンググループ打ち合わせ、そして研究者ヒアリングを通して、対象とする研究者が簡便にマッピングを行い、それを活用して研究を促進するためのマッピングソフトの方向性を確定することができた。

それを受けて、1. 検索結果を3ヶ月毎の特許出願件数推移でグラフ化するソフト、2. 単独あるいは複数組み合わせた検索語句のスコアリング処理、3. 個別特許公報の引用情報データベース等を利用して、キーとなる特許公報からの引用や被引用関係を可視化する三種類のマッピングソフトを作成している。

次に、これらのマッピングソフトを利用して、いくつかの技術についてマッピングを実施して検証を行った。結果として、今回作成したソフトは比較的簡便なマッピングソフトではあるが、特許情報検索に関して初心者の研究者が、比較的短時間で重要特許や基本特許を探知することや技術開発動向を把握することを可能とするソフトとして一定の機能を確認している。また、ソフト開発後に実施したアンケート調査では、将来的改良についての示唆を含む意見が寄せられている。

研究を進めていく中で浮上した今後の新たな課題は、特許情報検索と活用の習熟度が高い研究者に必要なマッピングシステムのあり方、技術の他分野への応用展開を本格的に指し示すことができるマッピングシステムの開発、更に、大学研究者を対象者に想定した、特許情報をイノベーション創出に活用するための研修体制のあり方である。

